

パネルディスカッション2

「慢性便秘症診療の最前線」

司会 磯本 一（鳥取大学医学部消化器腎臓内科学）
穂苅 量太（防衛医科大学校）

日常診療で慢性便秘症患者は種々の全身疾患の発症リスクを上昇させることが示され治療意義が高まっている。近年、新規便秘症治療薬として、上皮機能変容薬、胆汁酸トランスポーター阻害薬、ポリエチレングリコール製剤、末梢型オピオイド受容体拮抗薬などが上市され、日常診療が変貌をとげている。蓄積されたエビデンスをもとに、便通異常症ガイドライン 2023-慢性便秘症が発刊された。本主題では慢性便秘症の治療に関する最新の知見を紹介いただき実臨床におけるさらなる発展や研究への展開に繋がる討議の場としたい。